

学校と社会が連携し、「起業マインド」を持つ 女性リーダーを育成する研究

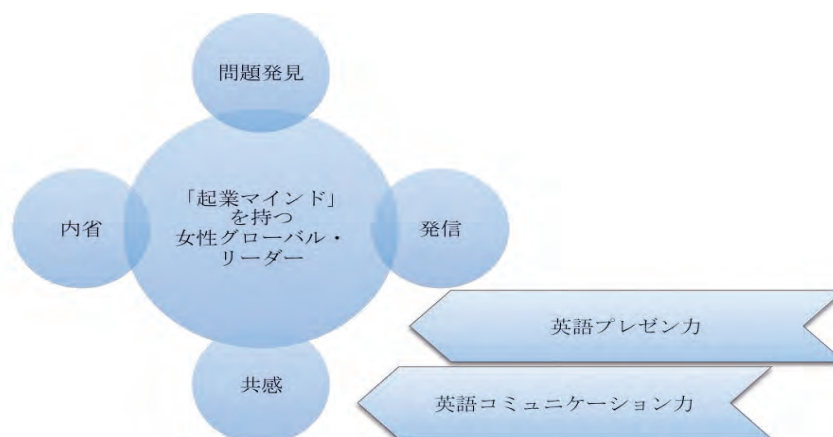
【構想の概要】

自ら社会の問題を発見し、多様な人を巻き込んで問題解決に一步を踏み出す人の育成を 目指し、6つの力（問題発見力・共感力・内省力・発信力・英語コミュニケーション力・英語プレゼン力）を身につけさせるために、有機的に関わる 4つの課題研究を生徒に 課す。いずれも学校外と連携し、生徒が主体的にチャレンジできる場を用意する。

【高等部カリキュラム】

1年	国語総合4	古典B2	世界史A2	現代社会2	数学I 3	数学A3	物理基礎2	化学基礎2	体育3	芸術I 1	コミュニケーション 英語I 3	英語表現 I 2	英語表現 II 2	社会と情報 2
2年(文)	現代文B3	古典B3	世界史B3	日本史B3	倫理2	数学II3	数学B2	生物基礎2	体育2 保健1	芸術I 1	家庭基礎2 コミュニケーション 英語II 4	英語表現 II 2		
2年(理)	現代文B2	古典B2	地理B3	数学II 3	数学B3	生物基礎2	化学3	物理3/生物演習I 3	体育2 保健1	芸術I 1	家庭基礎2 コミュニケーション 英語II 4	英語表現 II 2		
3年(文)	現代文B4	古典A3	世界史5/日本史5		世界史演習2/日本史演習2	体育2	保健1	コミュニケーション英語III 4		英語表現II 2		英語演習2		
3年(理)	現代文B2	数学III・数学演習/数学I演習・数学II演習7			物理演習/生物/化学演習 3	物理演習II/生物演習II/化学演習II 4	体育2 保健1	コミュニケーション英語III 4		英語表現II 2				

【SGH対象生徒】高等部1～2年全員、3年希望者（2年目より、プログラムの一部を中等部3年全員で実施）



どのプロジェクトにおいても、学校外と連携して課題に取り組むように計画した。P1では、デザイン思考による問題発見力の基礎を学習した後、協力企業とのコラボレーション授業及び文化祭での発表で活用させ、深めるというサイクルを確立した。P2では、身近なところからリーダーシップを考察することから発展させ、グローバルな視点から考察を深められるように、SDGsの学習を組み込んだ（シンガポール・リーダーシップ研修の実施、SDGs特別講座等）。P3では、1学期末～2学期の高等部2年家庭基礎の授業において、自分の生活の中に解決すべき課題を発見し、解決への道筋をつけ、その成果を発表共有する問題解決型学習を実施した。なお、英語科との連携をより一層深め、英語でプレゼンテーションができるように、指導を行った。P4では、P1～P3の総まとめとして、文化祭における起業体験プログラムの実施、SBP主催のアイディア・プレゼンテーション大会や外部のビジネスプラン・コンテスト等に積極的に参加する機会の設定を行った。

【P1】デザイン思考の講座

高1の総合的な学習の時間（週1時間）に実施していたが、他の講座の基礎となる講座であるため、2年目より、中3に前倒して実施（道徳と2時間連続した時間割にして、前半は全体講義、後半は各クラスでグループワーク）。身近な事象から問題を発見させることを重視し、そこから、他者及び社会とのつながりを考えさせた。

担任教員に、デザイン思考に習熟した外部ファシリテーター（慶應義塾大学坂井直樹前教授の指導を受けた大学生、(株)CURIO SCHOOL 所属の大学生等）を加えることで、学習効果を高めると同時に、教員のファシリテーターとしての能力育成も企図した。

各班の成果は常にプレゼンテーションで発表・共有した。



【P2】リーダーシップ講座

「共感力」「内省力」を身につけることを目標として、高1の総合的な学習の時間に実施。学校行事等への自らの関わり方を吟味することで、クラスやチームにおいて実践できるリーダーシップの発揮の方法を、さらに、具体的な実例を通して、社会課題の解決にリーダーシップがどのように活かされているのかも学習した。

さらに、国際的な課題を自らの問題として認識させることを意図して、River Valley High School（シンガポール）のリーダーシップセミナーに選抜生徒を参加させるプログラムと、SDGsから自分の課題を選んで調査、考察し、英語で発表する希望者対象講座（学年と公民科、英語科との共同指導）を追加実施した。

【P3】家庭科 CBL

高2の家庭基礎2時間を連続授業で編成（全8週）。2時間連続の後半はもう1名の家庭科教員を配置し、ティーム・ティ칭を実施。各教科から立候補した19名の教員がメンターとして授業に参加し、各班の研究計画書とプレゼンリハーサルの

チェック、助言を行った。さらに、地歴科教員による「研究・調査の進め方」講義、英語科教員によるプレゼン指導も取り入れた。指導においては、一次情報の収集と課題解決へのAction Planの実施を重視した。

Kolbe Catholic College（オーストラリア）とは以下のような連携を実施した。

- ・萩原伸郎先生によるワークショップの実施。
- ・テーマに対する生徒の意見収集（メール等にて）。
- ・Kolbe Catholic CollegeのCBL Classでプレゼンテーションとディスカッションを行うオーストラリア研修（優秀2班、8名程度）の実施。



【P4】起業プランコンテスト等に参加

①起業体験プログラム

高1、高2の総合的な学習の時間と、9月の文化祭を活用して「企画立案→企業理念の確立→会社登記→株式発行→運営→決算→株主総会」という流れを体験的に学び、その過程で起業マインドの実践に取り組んだ。とくに、利潤の追求に終始することがないように理念（社会貢献意識）を重視して評価した。

運営面では、保護者、企業関係者にサポート委員として参画していただき、事業計画や会計処理への助言、最終審査について協力していただいた。

②「Business Solution」の授業

高1社会と情報（全10回）で、起業体験プログラムの振り返りを行った上で、各自がビジネスプランを立案した。外部のビジネスプランコンテストにつなげるとともに、高2での家庭科CBL、起業体験プログラムにも活かしていくことを意図している。

各生徒のプランの指導においては、(株)ワークスアプリケーションズの協力も得た。

③起業プランコンテストへの参加

ソーシャル・ビジネス・アイデア・プレゼンテーション、ビジネス創造コンテスト（一般枠（社会人の部）で1名がオーディエンス賞を受賞し、中高生の部で1名が最優秀賞、1名が優秀賞に選出された）等、外部の起業プランコンテストに参加した。